

JAEA プルトニウム事故について (2) 事故を起こさないマネジメント

山西弘城
近畿大学原子力研究所

事故を起こさないことは不可能だと思います。私は規制を受けている施設の管理に従事している身ですので、客観的な理想論を述べることは許されません。また、ここで述べる意見は、私個人の意見であって、所属機関とは無関係であるをご理解ください。さらに、私は「安全学」の専門家ではありませんので、理論的な系統だったことは述べられませんが、この点についてもご容赦ください。

<内部被ばくが起こることを前提に>

結果論となってしまいますが、内部被ばくが起こることを前提として準備されていたら、事故には至らなかったと思います。作業者は内部被ばくを防止するために作業着とマスクと手袋などを着用していましたが、クリーンルーム設置、シャワーによる除染、鼻腔スミア、肺モニタによる測定は、「事故対応」として処置されました。クリーンルーム設置に約3時間かかり、作業者は早急な除染が受けられませんでした。強力な除染用のシャワーを使えませんでしたから、体表面に汚染が残り肺モニタの測定結果で大きな値が出ました。

開封作業をする作業チームだけでなく、プルトニウム含有物質を扱うことを重大なことと捉えて、除染と汚染検査と内部被ばく線量評価を行うサポートチームも一体となって、作業開始から内部被ばく線量評価までを一連のものとしていけば、「事故対応」ではなく、「一連の作業の準備」ということで滞りなく事故でなく作業を完了することができたと思います。